

教員免許状更新講習

～学級経営に生かす豊かな体験活動～

報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、7月29日(水)～31日(金)、8月7日(金)～9日(日)、11月21日(土)～23日(月)の3回、2泊3日の日程で、教育事業「教員免許状更新講習～学級経営に生かす豊かな体験活動～」を開催しました。

この事業は、小・中学校の教員が免許状の更新を行なうことと、豊かな体験活動を講義と実体験の両面から理解することを目的として実施しました。参加者は、群馬県を中心として関東近県からの参加で、1回目は30人、2回目は31人、3回目は27人の参加でした。本事業の内容は、様々な立場の先生方からの講義を通して体験活動の重要性を理解するとともに、当所で行われている体験活動プログラムを実際に体験する実習をとおして、心身共に体験活動の必要性を実感してもらおうというものでした。

＜研修の様子＞

1日目

1日目は「学校教育の現状と体験活動」と題した前橋市教育委員会指導主事の齊藤先生からの講義でした。フリップディスカッションという手法を使い、初対面で硬くなっている受講生の緊張をほぐしました。「不安感を和らげる効果がある。すぐに教室で実践したい。」という受講生の声も聞かれました。その後は、学校現場等において児童生徒が抱える様々な問題の現状や体験活動に対する講義が行われ、体験活動が今どうして求められているのかという話が続きました。体験活動を通して得られる資質は、まさに青少年問題を解決する一つの手立てであり、その重要性を分かりやすく説明していました。また、体験活動の事例としてふじみフレンドシップキャンプが紹介されました。富士見公民館を中心に前橋市教育委員会、当所などで地域プラットフォームを作り、参加者の社会性の育成、参加者同士のつながりつくるキャンプです。



最後に、体験活動におけるリスクマネジメントの内容では、林間学校での自校の活動も振り返り、「参加者の実態からゆとりのあるプログラムデザインを考えたい。」「最悪の事態を想定し、対策を考える大切さが分かった。」など今後に生かせる内容であったことが伺える感想が多かったです。

体験活動は、児童生徒の健全育成に有効であるかを考え、さらに、自校の実態に応じた体験活動とはどのようなものかを考える時間となりました。



午後は、仲間づくりのレクリエーションを体験しました。当所のあかぎアドベンチャープログラム（AAP）というプログラムから体験学習サイクルを学びました。仲間と関わりながらアクティビティを「体験」し、体験した時に何があったかを「ふりかえり」、ふりかえた内容を「一般化」し、それをどのように生活に「適用」するかというものです。学校の全ての時間で取り入れられるもので、実践例も多く紹介されています。

ビーイングを使ってAAPでの気づき・学びを模造紙に書き込みました。具体的に今のグループの様子が、3日後よりよくなっているために必要なことというテーマでビーイングを作成し、全員にとって居心地がよいグループや研修での学びが最大化するためのグループになるために必要な具体的な行動、関わり、言葉を野外炊事などプログラムが終了する度に書き込み、3日後よりよくなっていくために自分たちのグループで実際体験したことから感じたことを言葉に置き換えていきました。



受講生全員が笑顔で取り組み、難しい課題には真剣な表情で話し合っている姿が見られました。アンケートでは「体験学習サイクルを取り入れた学級運営をしていきたい。」「ぜひ、子ども達にこのプログラムを体験させてあげたい。」という声が多く、指導のポイントや効果などの理解を高めることができました。



2日目

午前は、「野外炊事」の講義・実習を行いました。野外炊事は当所で多く行われているプログラムの一つであり、事故の発生件数が他のプログラムより高くなっています。まずは、「ねらいで野外炊事の取り組ませ方が変わること。」「どのような事故が多く、何に気をつければいいのか。」という講義や実際に起きている危険性を画像で見ながら振り返りました。「安全指導が危機管理能力の育成につながる。」「災害時のための体験としても必要である。」という感想が聞かれました。



7月、8月の午後は、東京成徳大学の石崎一記先生より「自然体験活動と子どもの変容」という題で自然体験活動がどのように子どもの変容をもたらすのかという講義をしました。その後、赤城の森でネイチャーゲームを行ないました。仲間と関わりながら進めていくアクティビティ、自然と関わるアクティビティを行い、「他の先生方にも紹介し、自然体験の楽しさを知ってもらいたい。」「実体験に裏打ちされたお話で納得することができた。」等の感想が聞かれ、自然体験による自らの変容を感じていました。



11月の午後は、キープ協会の増田直広先生によるネイチャーゲームと講義でした。増田先生のアクティビティでも人との関わり、自然との関わりの中で進んでいき「五感を通じて自然と触れ合い、新たな気づきや生命尊重について学べた。」という声がありました。講義では、持続発展教育（E S D）についても触れ「自然体験をとおして持続可能な社会実現のための実践者を育てられるよう啓発していきたい。」という感想をもつ受講生もいました。



夜は、キャンプファイヤーの講義・実習を行いました。林間学校で夜のプログラムとして行われていますが、講義ではキャンプファイヤーの歴史、意義を説明しました。「火の神が出てくる」とか「フォークダンスをする」などを必ず取り入れるものではなく、そのねらいに応じてキャンプファイヤーを何のために行うのが大切であるということを伝え

ました。班での出し物の発表，群読，全員が感想を述べるなどの基本的な組み立ては様々であることを伝えると受講生に驚く様子が見られました。学校では前年度のやり方を踏襲しているところも多く，このようにしなければならないという固定観念があったと考えられます。実習では薪の組み方から，灯油を使わない火のおこし方，安全上の注意，レクリエーションの体験までの一連の流れを行い，受講生同士の交流もさらに深まったと思います。また，新しい手法として第1回の実習ではナイトシアターを紹介しました。



3日目

7月の午前中は，明治大学教授星野敏男先生の講義でした。日本で行われている林間学校の現状と課題について参加者がもっている課題意識から取り上げ，どのように今後変えていくことがより効果的なのか講習の3日間を振り返ることで考えました。また，キャンプの歴史，冒険教育の考え方，研究で明らかにされている野外教育の効果などを踏まえて青少年が成長していく上で体験が必要であることと，良質な体験の場と指導者を用意しておくことが大事であることを説明していただきました。「学校の教育目標等に対応した活動を構築し直し，新しい，効果的な取組ができないか検討することが大切。」「児童の実態から体験活動にどのような意味や意義をもたせるかはっきりさせたい。」という感想が見られました。



8月、11月の午前は、青少年教育研究センター客員研究員小林道正先生の講義でした。学校教育における体験活動の意義という題で行われました。

アイスブレイクを行い受講生の緊張をほぐしたり、3日間同じグループで活動したメンバーの振り返りを行い、話しやすい雰囲気を作ってから本題に入りました。宿泊学習の目的や効果、宿泊学習のプログラムの例など先生ご自身が元学校の先生であり国立吉備少年自然の家所長の経験を踏まえての講義でわかりやすい内容でした。

特に、授業は毎時間ねらいを決めて行うのに、林間学校になるとねらいが前年度と同じになってしまう現状があり、「何をするか」から「何のためにするか」で計画する大切さを伝えてくれました。受講生もなるほどと感じ、「次計画するときは『何のためにするのか』を考えて計画したい。」という声が上がりました。



最後の活動は、クラフトの実習でした。クラフト一つとっても様々なねらいで取り組むことができるという説明をし、今回は写真を見て3日間の活動の思いを共有しながらフォトフレーム作りを行いました。隣の人と話しながらかつ成する人、外に出て木の実を拾って来る人、創作に熱中する人など思い思いに作品を仕上げていきました。「実際に体験することでクラフトの良さを見直すことができた。」「最後に写真を見ながら振り返り、フォトフレームを作成する意図がわかった。」「図工と生活科を組み合わせたい。」など様々な思いを感じながら作成することができました。

また、ふりかえりの手法として、講習期間中に撮影した写真をパソコンに取り込み、音

楽に合わせての写真を流すスライドショーをしました。受講生から「感動しました。」
「是非取り入れたいです」などの感想がありました。



【事業を終えて】

本講習は、今年で5年目を迎えました。ここ数年、「もっと多くの人が受講した方がいいので、同じ内容で年に2～3回開催できないでしょうか。」という声が多かったため、本年度は3回の開催としました。本年度も群馬県を中心に周辺の都県から申し込みがあり、すぐに定員に達し、需要が高いことが感じ取れます。参加の理由も、昨年度同様参加した受講生から話を聞いてというものが多く、事前調査の内容でも現場で活用できる知識や技能を身につけたいというものが多かったです。少しでも自然体験活動の良さを伝えられればと来年度に向けて準備を進めているところです。

講習の構成としては、講義で体験活動の意義や必要性について理解し、実習で本所のプログラムを実際に体験してもらい技能を身につけるとともに、意図開きをしていくことでねらいを理解してもらうようにしました。講師の先生方により雰囲気をつくっていただいたことで、自然と笑顔がこぼれるような場面が多く見られました。特に、3回目の講習の受講生は、終了後に受講生同士で連絡を取り合い、当所に宿泊をして研修やお互いの学校の情報交換をするなどの機会を作り、講習会をきっかけに交流の広がりが見られました。また、さらに詳しく学びたいという受講生もあり、11月の当所教育事業「自然体験活動指導者養成講習」に申し込み、自然体験活動指導者に登録している方もいました。

参加者が体験活動の重要性や効果を知り、授業等に取り入れたり、指導していくために免許更新講習の開催の意義があると思います。指導の幅が広がり児童生徒に豊かな体験活動を提供できるので大変意味深い事と思います。今後も多くの参加者に体験活動の理解を深めるとともに、学校での活用につながる事業であり続けるよう工夫していくことが必要だと思っています。

担当 企画指導専門職 根本 純一